



## 2023年度事業計画と予算を承認！

5月14日、午後7時より8時50分まで、2023年度の総会が対面とZOOMで開催されました。神田理事が議長として選出され、正会員数23名中(正会員21、学生会員2)、本人出席9名(対面3名、Zoom6名、委任状3名、計12名の出席があり、定款に定める構成員の4分の1以上の出席を得たことにより、総会は成立したことが確認されました。

2022年度の事業報告と決算報告が承認され、引き続き、2023年度の事業計画と予算計画案が提出され、承認されました。

2023年度事業計画は、コロナ感染症の収束時期とクーデター後の政治社会の安定時期にかかっています。この先行きが全く不確実な現状においては、年度内にこれらが収束することが難しいという想定で、計画が作成されました。要点は以下の通りです。

### 1. 役員

2023年度は非改選期に当たり、前年度に引き続き、藤村会長(事務局長を兼務)、菊池副会長、神田理事、金丸理事、藤本監事が務めることが確認された。

### 2. 国際開発フィールドワーク支援事業

植林ツアーの見込みがないことから「基礎的なミャンマー事情についての勉強会」を開催することとする。勉強会は、ミャンマーでのフィールドワークに関心を持つ学生を対象とし、MJET学生部以外の学生にも参加募集して、参加を受け入れる。

### 3. 植林ツアー

コロナ危機の状況が改善しないため、今年度は中止とし、状況が改善すればいつでも計画打ち合わせ調査を実施する。可能であれば、バリ島でのエコツーリズムについて学習する。

### 4. 日本のエコツーリズム事業

昨年同様、日本国内のエコツーリズム活動を視察して、学習することとし、東京から遠くない飯能付近のエコツーリズム活動の視察を予定する。「ポパ山麓のフラワーパーク構想」に関し、それらの人達の考えも拝聴する。

### 5. 農村開発事業

今年度は実施しない。

### 6. ミャンマー青少年支援事業

奨学金勘定を廃止し、事業活動の一環として、Moeさんの日本語教室受講生への奨学金として、200,000円を計上する。

### 7. 2022年度予算

予算原案は、経常収入を1,358,734円、経常支出を1,219,934円を見込む。差し引き138,800円を次期繰り越しとする。

## 春の日緬青年交流会 山梨でのさくらんぼ狩り

梅雨晴れの6月18日(日)、(一社)日本ミャンマー友好協会が主催する「春の日緬青年交流会」に協力して、日本とミャンマーの青年10名が参加して、「さくらんぼ狩りバスツアー」を楽しみました。

今回は、山梨県の5つの名所を巡る日帰りツアーでした。日本とミャンマーの青年が交流できるように、主催者が参加者の往路と復路のバス座席を予め組み合わせて指定しました。また、5箇所の名所を回る間の座席は自由としました。これによって、日本とミャンマーの青年がバスの中で、隣り合わせで交流できるようにしました。

### 「猿橋」の景観

最初に「猿橋」の景観と紫陽花の花を觀賞しました。



ここは1426年(応永33年)武田信長と足利持氏、1524年(大永4年)には、武田信虎と上杉憲房とが合戦した場所で、戦略上の要所でした。

### 「浅間神社」へのお参り

次に、甲斐国一宮神社として有名な浅間神社を訪問。たくさんのお祈りとお礼のお札を見ました。

### 「さくらんぼ狩り」

ランチの後は、待ちに待ったさくらんぼ狩り。場所は勝沼ブドウ畑の高台のさくらんぼ畑です。オーナーの青年から、いくつかの注意事項を聞いた後、すぐに「さくらんぼ狩り」に臨みました。要は「30分間に、いくつ食べても良いが、一個でも持ち帰りが発覚すれば、高いお金を払ってもらう」とのこと。各自、小さなビニール袋をもらい、食べたならこれに種をいれるべし、とのこと。さくらんぼの木々は、2~4m程度の低木。4種類のさくらんぼが植えてあるとのことだが、知っているのは、「佐藤錦」くらい。次々にちぎっては食べ、ちぎっては食べ。。。。30分は瞬くまに過ぎていきました。



### シャトー勝沼でのワイン試飲

最後に「シャトー勝沼」のお店で出来立てワインの試飲会。甘い、辛い、そして、さくらんぼワイン等。カップに注いでは、グイ、注いではグイ。。。。



## MJET 勉強会を開催

今年度の勉強会を開催しましたので概要を報告します。

### 第一回

日時：6月24日（土）：午後8時～9時半

場所：ZOOM

トピック：「在日ミャンマー人による民主化運動」

今年の第1回勉強会は、MJET 学生部長で、東京外国語大学大学院総合国際学研究所修士課程2年の石川航さんが、修士論文に取り上げる、「在日ミャンマー人による民主化運動」について、勉強会を開催しました。

研究は以下の5項目のトピックをカバーしています。

- (1)ミャンマーにおける民主化運動の歴史と在外ミャンマー人の民主化運動の背景
- (2)今日における在日ミャンマー人の概要
- (3)2021年クーデター以降の在日ミャンマー人による民主化運動－内部での連帯と葛藤
- (4)2021年クーデター以降の在日ミャンマー人による民主化運動－外部との連帯と葛藤
- (5)総括：運動への参加

これらのトピックに関して、参加者からいろいろなコメントが出されました。主たる助言は以下のように要約されます。

- 修士論文では何か新しい発見や気づきを書かないといけないが、そのための必要なデータを47,000人いるとされる在日ミャンマー人からどれくらい入手できるか、調査対象の在日ミャンマー人の母集団をどれくらいにするか、また6か月間という時間の要素を考慮して、可能な範囲を決めると良い。
- 論文には何か仮説を立てて、それが成立するか否かを検証する形式のものがある。その場合にはどのような仮説を念頭に置いているのか、論文の焦点がどこにあるのか明確にすると良い。
- 他方、論文が必ずしも仮説を立てて証明する形式である必要はないと思われるが、その場合でも、単なる調査報告に終わらないようにまとめていくことが大切である。

### 第二回

日時：8月27日（日）：午後8時～9時半

場所：ZOOM

トピック：「少数民族の農村開発：シャン州パヤタンの事例から」

講師：文教大学、林薫教授

#### 講演概要：

- (1) 地域の概要：シャン州の概観、その中でのパオ族の社会と歴史

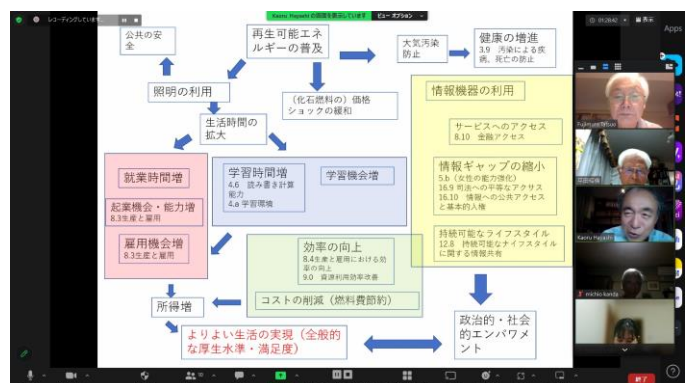
- (2) パヤタン僧院と地域開発
- (3) 学生とのワークキャンプ（2014-2020）。活動概要
- (4) 学生の気づき
- (5) コロナ以降のリモート交流
- (6) クーデター
- (7) 「どうするパヤタン」クーデター後の状況

林薫教授は、シャン州で少数民族の農村開発に関する活動を学生さんと一緒に取り組んでこられたので、これまでどのような活動をしてこられたか、どのような困難に直面し、解決に努力されてきたかを、お話ししていただきました。

- 林先生は、1960年代と1980年代後半の2度ミャンマー滞在経験があり、2004年に文教大学に移り、2013年からNICE（日本国際ワークキャンプ）と連携してパヤタン村で学生とともに様々な活動を実践してきた。
- パヤタン村はシャン州とカヤ州の境にあり、ダムによって水没した村が移転したもの。パオ族（カヤ系の仏教徒）、インダー族、リス族、カヤ族などからなり、パオ族自治区が設置されている。
- 自治区はポンポンジー（高僧）が支配し、自治区の兵隊（民兵）を持っている。

質議のポイントは以下の点でした。

- 学生の活動は⇒学生は2週間滞在し、ヒマワリの収穫、オイルシードの手伝いなど。
- パヤタンから4kmのサンバル湖には無色透明だが48度程度の温泉がある
- 電気はどうしているか。⇒太陽光発電（中国製パネル+タイ製のインバーターと蓄電池）これに衛星TVアンテナをつけるとテレビも見れる。導入コストは2.2か月分（年収は1800ドル位）



- パオ族の言葉は⇒ビルマ語族である。
- クーデター後の動きは⇒ミャンマーには135の少数民族が存在する。NCA(National Ceasefire Agreement)に参加しているのは50%位で、パオ族は参加しており、平和的だが、隣接するカヤ州は戦火を交えている。



# ミンガラバーMJET News Letter

13-3-504, Minami Motomachi, Shinjuku-ku, Tokyo Japan 160-0012  
Tel: 03-3353-6377, Fax: 03-3353-6377, E-mail: info@mjet-tokyo.com



## 第三回

日時：11月18日（土）：午後9時～10時半

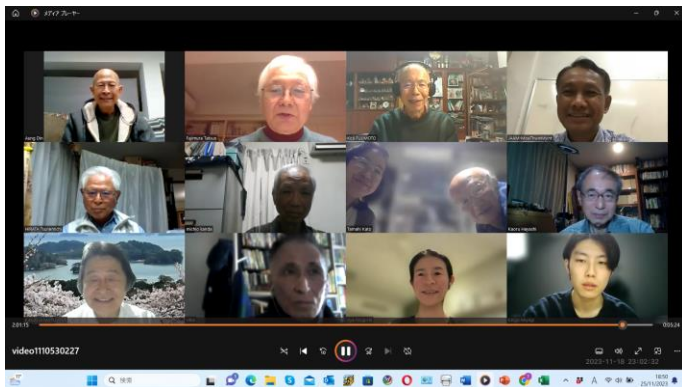
場所：ZOOM

トピック：「Responsible Ecotourism and Community-based Ecotourism in Myanmar」

講師：U Aung Din, Chairman of the Nature Lovers, Inc.

参加者：11名（ヤンゴンから Moe さんとクアラルンプールから野口さんも参加）

現在、NY 滞在中の U Aung Din をお迎えして、エコツーリズムの概念の中で、近年より重要視されている「責任あるエコツーリズムとコミュニティをベースにしたエコツーリズム」について、お話をお聞きました。ヤンゴンのモートウィンミンさんもサポーターとして参加され、必要に応じてミャンマーの現状に関して補足説明をされました。



講師は以下の9項目について、話されました。

1. What is tourism?
2. Stakeholders in tourism
3. Responsibilities in tourism
4. What is Ecotourism?
5. Why Responsible Ecotourism?
6. What is community?
7. Why should Ecotourism base on Community?
8. Benefits of Community Based Ecotourism?
9. Conclusion

お話しの中で強調された主要な点は以下のような内容です。

- ツーリズムは次の3つの要素から成り立っており、それぞれに受益者が関わりあっていると共に、3つの要素は互いに関係しあっている。

- ①Attraction (community)
- ②Accessibilities (Public authority)
- ③Amenities (private operator)

換言すれば、観光の対象となる現地の「魅せるもの」とそれへの「アクセス手段」と「快適さ」をそれぞれ、コミュニティ、公的機関（行政）、民間企業（業者）が分担して協力してツーリズムが成立している。

- 責任あるツーリズムとは「人々が居住したり、訪問したりするためのより良い場所を創造することである。そして、ツーリズムを持続的なものとするために、すべての受益者を奨励し動機づけるものである」

- 責任あるツーリズムは次のような事柄に留意しなければならない：

- ◇ 社会、経済、環境の負のインパクトを最小限化
- ◇ コミュニティの人々の受益創出と生計の向上
- ◇ 労働条件とサイトへのアクセスの改善
- ◇ ローカルの人々の意思決定への参加と機会の賦与
- ◇ 自然と文化の多様性の保全

- ミャンマーの7地域、7管区には多くの自然と生物多様性を保全するための保護区や国立公園がある。これらを保全するためには、サイト地域に居住する人々の生計向上を重視する必要がある。残念ながらイラワディ管区を除く13カ所は危険な状態にある。



- エコツーリズムにおけるコミュニティの便益には以下のような内容が損なわれないことが含まれる：

- ◇ 所得；ライフスタイル；インフラストラクチャー；居住地と土地の景観、生物多様性、カーボンフットプリント、知識と経験の交流

プレゼンの終了後、非常に活発な質疑応答が交わされました。アウンディンさんから、インレー湖等の事例を挙げて問題点と留意すべき事項が説明されました。

Q: ミャンマーは大きなエコツーリズムのポテンシャルがあるが、平和が来れば、非常に有望な発展のベースになるのではないかと？

A: 率直に言って、なお発展途上だ。テインセイン時代には、エコツーリズムのサイトがオープンとなったが、ビジネス人は金儲けばかり優先し、知識人の警告を無視した結果、オフショア等の環境を壊してしまった。その結果、インレー湖の水質汚染・水量減少やロックパゴダ近辺のゴミ問題・水害の頻発などが起きた。エコツーリズムには、自然環境とコミュニティを守るために、3つの「D」が重要だ：劣化を起こさない (not to Degrade) こと、乱したり阻害したりしない (not to Disturb) こと、および損害・破壊をしない (not to Destroy) ことだ。